

## 「地域と男女共同参画」を議論するにあたっての私見

鹿嶋 敬

- 1 男女共同参画についてどう市民の理解を深めればいいのか
  - 身近な話題としての男女共同参画
    - 男女共同参画を語る人、男女共同参画センターに出入りする人は「特殊な人」エリートに関心事？
    - 「自治体が騒いでいるだけ」
  - 非正社員問題と男女共同参画を結びつけた議論の不在
    - 固定的な性別役割分担の合理性喪失
    - 高度経済成長期の幻想への固執、特に昭和30年代への郷愁
  - 女性センターは男女共同参画の看板を出さない方が集客力あり？
    - なぜ男女共同参画は敬遠されるのか
    - 誤解・理解不足・敬遠 - 高尚な議論 難しい議論（特にジェンダー）
    - バックラッシュの影響
    - 男女共同参画が果たしてきた“功績”をアピールする必要性
  - 男女共同参画に関し、新たな定義付けをする必要があるのか
    - わかりやすさの確保 親しみやすい略称（3文字以内）
- 2 女性センターは男女共同参画推進の拠点としての役目を果たしているのか
  - 地域の独自性を出しているか
    - 高齢化 3世代同居 フリーター比率 被災地 高学歴・高収入の夫の多い地域
    - 普遍的課題と地域独自の課題の選別
  - イベントの中身は男女共同参画推進にふさわしいか
    - 囲碁サロン、料理教室、パソコン講座はふさわしい催しか
    - 「エンパワーメントを図る施設」という言葉を聞かなくなったがいいのか
  - 私立の女性センター
    - 施設の老朽化 役員の高齢化 将来性
  - 公立女性センター
    - 「男女共同参画センター」になってからのソフトが未開拓
    - 管理運営問題（指定管理者制度）の浮上
  - 企業にコミットする道筋をどのようにつけるのか
    - 「セクハラ」講座以外にテーマはないのか
    - 例えばワーク・ライフ・バランス
    - 21世紀職業財団などどうかかわるか
- 3 指定管理者制度はどんな問題を抱え込むことになったのか
  - 男女共同参画の理念をぶれずに具現化できるのか

民活 + 経費削減

理念・専門性の希薄化 長期ビジョンを描けない悩み 情熱不足

指定管理者と自治体の意関係

両者の関係は良好か（センターの設置者である自治体の理解が得られないなどの悩み）

職員の士気は上がっているのか

非正規雇用職員の増加 - 非正規雇用はテーマにしにくい？

受託事業者側の人材は育っているか

行政がやってきたことをそのまま受け継いでいるだけのケース

自治体の経費削減に加担しているだけ

#### 4 行政の取り組みに問題はないか

希薄化する職員の男女共同参画意識 - 面白い部署に行くね 興味がない なじみがない

3年の人事ローテーション

専門性の継続に黄信号

理念を理解しているのか

男女共同参画予算の削減

事業は継続・新規展開ができてしているのか

地方議会の男女共同参画への偏見にどう反証するか

「箱物は税金の無駄遣い」

「男女共同参画は市民・県民の要望が低い」

「箱の中で何をしているのか、よくわからない」

#### 5 女性団体の男女共同参画への取り組みに問題はないか

新旧団体の抱える問題点

新団体 既成団体は何をしているのか理解できない ヒエラルキー型（男性型）

既成団体 若い人は無関心 世代交代の失敗 高齢化

新たな女性運動を模索する必要性はないか

ワーク・ライフ・バランス企業を育てるなどの消費者運動の展開

CSR関連での女性団体のイニシアチブ

（ISOのようなガイドラインの策定）

女性運動に対する関心が停滞している原因究明

若い女性の被差別体験の減少

ミーイズム

運動の担い手だった地方公務員が多忙すぎて関心が回らない

非正社員は生活防衛に必死